No. 1

論　文　内　容　の　要　旨

専攻名	経営意思決定　専攻	氏　名	富永　ちはる
題　名	機能不全家族に対するソーシャル・サポート －テキストマイニングによる事例研究－		

論文内容の要旨

職場で活躍する人は，例外なく，また否応なく，それぞれの家族と関係性を持つ。カウンセリングの分野においては，従来は親子関係の問題に焦点を充て，関係修復を目指したアプローチの検討に主眼を置くことが多い。それに対して本研究では，当事者の背景にある親子関係の問題を理解しつつも，必ずしも関係修復を目指すのではなく，親子関係の問題と共存しながら自分らしく生きようとすることに主眼を置く点が独創的である。

また，親世代の労働環境を整えることは，ひいては子ども世代の健やかな成長に良い影響を与えるのではないかと考える。したがって，本研究は「働く人をどう活かすか」という経営のテーマに心理学の知見を活かした研究であると言える。

本論文は，7章により構成されている。

第1章　序論
第2章　先行研究の概観および問題
第3章　Case1：家族との心の距離を抱えた女子学生への支援
第4章　Case2：対人関係に悩む女子学生のコミュニティによる支援
第5章　Case3：家族再生，うつ病克服，それに社会復帰を願う男性
第6章　青年期から成人期におけるソーシャル・サポートのあり方
第7章　結論

第1章では，問題意識および本研究の目的，方法について述べている。発達心理学における学術的視点及び大学カウンセラーとしての実務家的視点から，近年の家族力の弱体化が指摘され，職場の上司や同僚から得られるソーシャル・サポートの重要性に注目している。若者にとって，職場での信頼できる上司や同僚の存在は，職場環境への適応や健康保持のために重要である。したがって，本研究は，カウンセリングの事例の中から，家庭環境の問題を抱えた事例を対象とし，新しい職場環境への適応に必要とするソーシャル・サポートについて考察することを目的としている。

研究方法は，相談記録，インタビュー，メール等のテキストデータを使った，テキストマイニングによる事例研究である。これまで一般的だった量的研究では見落とされがちな対象者個人の「言葉」を抽出し，重要ワードマッピングを作成して，カウンセラー独自

氏　名	富　永　　ち　は　る

の視点から解釈と考察を行っている。

第 2 章では，先行研究の概観および問題を提起している。主な先行研究として，機能不全家族，ソーシャル・サポート，ワーク・エンゲイジメントを挙げている。問題点として，機能不全家族の定義の難しさが挙げられている。何をもって家族が機能不全であると断定できるのかは大変難しいテーマであり，本研究では，Neuharth（2002/2012）の「心が不健康でコントロールばかりする親の家庭」を参考としている。

第 3 章から第 5 章までは，3 つの事例について概観し，考察を加えている。

第 3 章（ケース 1）は，親の顔色を伺い，対人関係に過敏な女子学生 A の事例である。テキストマイニングによって，カウンセリングが A の心の居場所，安全基地となり，徐々に対人関係を拡げていく過程がマッピングで可視化されている。また，就職後は女性蔑視の強い職場で希望の仕事は叶わなかったが，結婚を機に地元に戻り，果樹栽培への挑戦と子育てとの両立に励む A の周りには，同業仲間や家族が A を支える様子がマッピングに示されている。

第 4 章（ケース 2）は，両親との距離をおく女子学生 B の事例である。「自分は発達障害ではないか」と相談を繰り返し，周りに迷惑をかけたり，誤解を与えたりするかもしれないという対人不安を抱え，同級生とも距離を置いていた。自ら障害者雇用枠での就職を選択し，体調を崩しながらも，職場の上司たちの手厚いサポートに恵まれて働き続けることができている。テキストマイニングによって「仲間に支えられ，仕事に希望を持って働き続ける」B の心に「仲間意識」が芽生え，心の安全基地を得た様子が可視化される。

第 5 章（ケース 3）は，大学在学中に両親が離婚し，親が起こす種々の問題に翻弄され，祖母の介護と長時間労働によって鬱病を患い離職した男性 C の事例である。外出時のパニック症状による予期不安が強く，就労は容易ではない。在宅ワークで生計を立てつつ，病気の完治と社会復帰を目指す C は，テキストマイニングによって，C と職場を繋ぐキーパーソンが必要であるとしている。

第 6 章は，青年期から成人期への移行期におけるソーシャル・サポートのあり方について考察している。実際に行われている支援について，大学入学前，在学中，卒業・就職後に分け，3 つの事例から明らかとなった「質」ついて考察している。

第 7 章では，要約，研究の意義及び今後の課題と展望を述べている。経営では「働く人をどう活かすか」という「人」に関するテーマを扱うことから，心理学の知見が活かされる。本研究では，テキストマイニングによって，ソーシャル・サポートの「質」と，互いに助け合う職場風土の醸成が重要であることが示唆された。このことは，「働く人」全てのワーク・ライフ・バランスの実現に繋がるとも考えられ，ここに本研究の意義がある。

（2,000 文字）